

患者に優しい医療を考える フォトルポ

入院患者にとっては病院という限られた空間が生活の場のすべてである。ただでさえ不安を抱えている人には、リラックスできる環境が回復の助けとなる。全室個室でオーシャンビュー。お酒だって飲むことができます。従来の入院のイメージを打ち破る、ホテルのような病院を紹介しよう。

監修&写真・伊藤隼也

一日5万2500円のエグゼクティブ個室（12階）には、ジャグジーバスまで付いている。晴れた日は南房総の海を一望できる

日本一のリゾート病院





禁止使用



↑ヘリポートに立つ双子の亀田総合病院・亀田信介院長（右）と亀田クリニック・亀田省吾院長
←↓最先端の設備を導入した2階の手術センターには、内視鏡手術専用の部屋が2室ある。写真は腹腔鏡による胆嚢摘出手術。監視モニターで全手術室をチェックできる



広々とした吹き抜けの1階ロビーにあるインフォメーションデスクでは、コンシェルジェが病院内を親切に案内してくれる



13階の和食処「亀楽亭」では、房総の海で獲れた旬の魚介類を天ぷらや鉄板焼きで食べることができる。眺望の良さも食欲をそそる

産科で出産祝いに病院からサービスされるシャンパンディナー。妊婦と家族1名分は無料。写真は伊勢エビが入ったイタリア風よせ鍋



4月1日、南房総・鴨川にリゾートホテルのような病院が誕生した。それが亀田総合病院の新病棟「K-Tower」だ。全264床がオーシャンビューの個室で、食事のルームサービスが24時間受けられる。普段と同じような生活をしたほうがリラックスして治療を受けられるという観点から、治療上の制限がなければ患者の飲酒も認め、面会は24時間自由となっている。家族が宿泊するためのソファベッドまで付いている。これだけの設備でありながら、値段は他病院と同レベルというから驚きだ。「差額ベッド代が一日1万5000円の部屋が9割を占めます。価格は、一般的な民間保険で受けられる入院給付金を意識して設定しました。ゆったりとした快適な環境で

治療に専念できます」（亀田信介院長）
医療水準も高い。最先端の設備を備えた手術センターでは、内視鏡や患部を立体的に映像化する三次元ナビゲーションシステムを使った手術を実施。陣痛から分娩、回復まで同じ部屋で行える周産期センターもある。病院の目の前はヘリポートになっていて、救急医療での活躍も期待され、全病室に完備されたパソコンでは電子カルテの閲覧ができる、など先進的な取り組みも目立つ。
「快適な病室のせいかご家族の滞在時間も長くなり、身の回りの雑用で看護師が呼ばれるケースが減りました。全個室化で看護師にかかる負担の増加を心配していましたが、うれしいことに医療業務に専念できる時間が増えていますよ」（亀田院長）



13階のカフェバー「OriOri」。夕方5時以降は、スポーツ中継やダーツを楽しみながらお酒が飲める

4～5階は女性専用のフロアになっている。4階のリラクゼーションサロンでは、有料でボディマッサージやネイルケアが受けられる

二次使用禁



プラズマテレビや応接セット、キッチンが備わったエグゼクティブ個室。部屋の広さは60㎡で、リゾートのコンドミニウムのような